



政友会 水谷 進 議員

- ①自主財源の確保について
- ②「開かれた学校」について

質問① 自主財源確保のため、鈴鹿市が持っている様々な媒体に広告を募集したらどうか。

答弁① 自治体が取り組む広告事業は財源の確保のみならず、経費の削減、職員の意識改革、そして地域の活性化などにも大きな効果があると考えます。ホームページのバナー広告を始め、鈴鹿市が持つ様々な媒体について早急に調査をし、市民アンケートなども実施をし、できるだけ早期に広告事業の取り組みを始めたいと考えている。

質問② 「学校評議員制度」が本来の機能を果たしていないと思うがどうか。また、「学校経営品質」や「外部評価」の取り組みの状況。また「学校経営の改革方針」等の公開こそが「開かれた学校」の第一歩と考えるがどうか。

答弁② 「学校評議員制度」については、機能が十分発揮できるよう再度、指導していきたい。信頼され、活力ある学校づくりのため「学校経営品質」を小中40校で実施している。また、平成18・19年度の2年間、国の委託を受け、小中10校で学校評価のガイドラインについて実践研究を行っている。より地域に開かれた信頼される学校づくりの有効な方法として「学校経営の改革方針」等の公表を積極的に取り組んでいきたいと考える。



無所属クラブ 杉本 信之 議員

- ①食育の推進について
- ②農業用水の水不足について

質問① 平成17年に制定された食育基本法では、食育を生きる上での基本とし、知育、徳育、体育の基礎となるべきものと位置付けている。食育を推進していく上では、農林・保健福祉・教育等の連携が必要である。又、食育専門の部署の設置と基本計画の策定予定はあるか。本年より学校に栄養教諭が7名おかれたが学校での食育指導の方法はどんなものか。地域でのリーダーとしての活用は考えられないか。

答弁① 現在各課で食育に取り組んでいるが、十分に

連携して行なってはいない。今後は関係部局の協力体制について協議を行うとともに、食育推進基本計画も検討する。

質問② 鈴鹿川沿岸土地改良区において用水路をパイプライン化しているが、水が来たり来なかったりでは自動給水栓になっても意味がなく、システムとして改善できないか。今後も雨が降らない事も考えられるので、他水系などから水を回してもらうなどをして水の確保ができないか。

答弁② 今年は全国的に降雨量が少なく鈴鹿川からの取水量が少なく、三重用水から補給して田植えができた状況である。農業用水の効率化及び維持管理の省力化の為、パイプラインは計画的に進めていく。



日本共産党 石田 秀三 議員

- ①非正規教員の待遇について
- ②鈴鹿医科大薬学部への助成について

質問① 小中学校の少人数学級の充実のために、市費負担の非常勤講師が大増員され、県費負担と合わせて128人となっている。常勤講師77人を含む非正規教員は、教員全体の2割を占め、それでやっと学校現場が回っている。とくに賃金、待遇で不利な状態の非常勤講師の改善を求める。

答弁① 非常勤講師は時間給で、週18時間を限度に授業を担当している。市費負担講師の待遇は、県費負担講師と同等にしており、今後県に引き上げを求めて

いきたい。

質問② NTT研修センタ跡地に新設される薬学部に9億円もの補助金を決定した経緯を問う。医科大には、かつて誘致時に土地代を含め33億円を助成したが、今回は誘致ではなく、また財政事情も違い、市民の理解は得られないのではないか。

答弁② 市の懸案事項であったNTT研修センタ跡地の利用計画に沿った設置であり、経費に対して県1割、市2割の助成を決定した。



NTT研修センタ跡地